

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年10月24日

【評価実施概要】

事業所番号	4270300397		
法人名	特定非営利活動法人 しおさい福祉サービス		
事業所名	グループホーム しおさい		
所在地	〒855-0864 長崎県島原市秩父が浦町丁3539-22 (電話)0957-65-5147		
評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成19年10月14日	評価確定日	平成19年11月13日

【情報提供票より】(H19年 10月 2日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	14年	3月	1日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6	人	
職員数	9 人	常勤	4 人, 非常勤	5 人, 常勤換算	4.1人

(2) 建物概要

建物構造	木造り		
	2階建ての	階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	3,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	6名	男性	2名	女性	4名	
要介護1	0名	要介護2	1名			
要介護3	2名	要介護4	3名			
要介護5	0名	要支援2	0名			
年齢	平均	88.8歳	最低	82歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	河原医院 植木歯科
---------	-----------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道沿いに建設され、一般的な住宅を思わせる雰囲気である当ホームは、施設長が特別養護老人ホームで勤務した経験を基に、密接なケアを目指し「自分が年を取ったときに入りたいホーム」を根底に置き、熱い思いが活かされたホームである。窓からの眺めは海と島を眼下にし、絶景で居室から魚釣りが可能である。又、大理石の足湯があり、浸かりながら景色を楽しむことが出来、ホームを取り巻く環境は、地域の人々との密接な触れ合いを含め、和やかである。又、特別な場所という捉え方ではなく、今までの入居者の生活歴に配慮しながら、生活をそのまま楽しまれている様子が、居室作りや入居者の笑顔から理解できる。正にグループホームの在り方を実践されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	評価をホームの向上の一端とし、意義を理解して頂き、前回の評価を真摯に受け止め、職員と話し合いを行い、改善計画シートを作成し、課題に向けて早急に取り組み、計画的に一丸と成って改善されている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員全員に問いかけ、意見を施設長が集約し、記述されている。文言は少ないが、現在の取組状況が理解できる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は2ヶ月毎に開催され、広報誌・行事・入居者の状況・スタッフ研修等の報告をし、1時間位の時間を費やし、和やかな会議が開催されている。会議内容を記録されているが、時間・参加者・質疑応答内容の記述がなく、ホームからの報告事項は理解できるが、個々の会話を織り込んだ詳細な記述にされることを期待したい。又、次の開催日の確約状況を記述されることが望まれる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族からの意見や要望は殆んどないが、家族は最低でも1ヶ月に1回以上来所され、親しく会話をされている。広報誌(毎月発行)に略3ヶ月毎に「何かありましたらお伝え下さい」と載せ、意見や要望を聞き取る取り組みをされている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	施設長が生まれ育った場所に開設され、現在もホームの回りに親族が居住されている事もあり、地域の皆さんから愛称で呼ばれる関係である。遊びに来られたり、散歩時の声掛けや町内清掃・鬼火・祭り等の地域の行事に参加し、地域の人とは密接な交流が図られている。

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に根ざした生活の中で「生涯現役」「毎日一生懸命」を理念に掲げ、入居者と普通にその人らしく生活できることを大切にされている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関と廊下の突き当たりの2ヶ所に大きく掲げ、職員ミーティング時に話し、自分の祖父母に接するように一丸となり、日々の介護をされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	施設長が生まれ育った場所に開設されており、地域の皆さんから愛称で呼ばれる関係であり、遊びに来られたり、町内清掃・鬼火・祭り等の地域の行事に参加し、地域の人とは密接な交流を図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員会議において全員に問いかけ、色々な意見を施設長が集約し記述されている。又、前回の改善点を真摯に受け止め、改善計画シートを作成し、計画的に実施されている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月毎に開催されている。広報誌・行事・入居者の状況・スタッフ研修等の報告をし、1時間位の時間を費やし、和やかな会議である。会議内容を記録されているが、時間・参加者・質疑応答等の記述はない。		運営推進会議の参加者や開催時間を記述され、内容的な面で、参加者の会話を織り込んだ記録をされる事を期待したい。又、次の開催予定の確約状況の記述が望まれる。

グループホーム しおさい

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村とは密接な関係であり、講演会の参加等、積極的に交流が図られている。又、施設長が認知症の指導員の立場であり、様々な場所で活躍されている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月広報誌を発行し、家族に送付や、直接手渡している。病状の変化や受診等の必要時は電話で連絡を実施している。立替金については、領収書を利用料と一緒に添付し(ホームに控えを保存)請求している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見は殆んどないが、家族は最低でも1ヶ月に1回以上来所され、親しく会話をされている。広報誌の紙面に略3ヶ月毎に「何かありましたらお伝え下さい」と意見や要望を聞き取る取り組みをされている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	常勤者の交代は殆んどなく、入居者は馴染みの職員が居ることで安心されている。夜勤の専属職員を配置するなど職員の負担を軽減するよう配慮されているが、非常勤者の交代は比較的が多い。		非常勤者の交代に関しての入居者のダメージを考慮する為にも、広報誌において、新人職員紹介コーナーを設けられ、自己紹介や心意気の記述や家族へ紹介されることによって、馴染みの関係になる取り組みを期待したい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能な限りの研修に参加され、毎月25日に職員会議を実施され、様々な情報を伝達し、職員のスキルアップを目指している。勉強会は口頭での伝達で、会議録の記述はされていない。		職員会議を様々な研修の場所として活用される意味でも、会議録(日付・出席者・議事題目)を記録され、計画的に職員の必要としている勉強をされる事を期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設長は地域における同業者間の指導者的な立場であり、毎月島原半島グループホームケア研究会に参加したり、近隣のグループホームの祭りの参加や、ホームを見学に来られたり、交流が図られ、同業者とのネットワークができています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居希望者や家族が施設見学に来られたり、施設長が自宅や病院を訪問し、ホームの状況を説明し、納得をされての利用であり、落ち着かれている。ホームが馴染みやすい家庭的な環境である事が伺える。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>常に「自分が入りたいホーム」を目指し、家庭の中で祖父母と接するように、人生の先輩と一緒に過ごし、学び、支えあう関係を確立されている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>基本情報1・2・3の書式に詳細に記述する事で、入居者の生活歴を把握し、職員間で共有を図り、今までの暮らしぶりや意向・希望に沿った支援ができています。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>職員会議での話し合いを基に、入居者一人ひとりの課題・ニーズ・問題点をアセスメントで抽出し、入居者担当者が計画の案を出し、介護支援専門員がチェックしながら、個別で具体的な計画が作成され、家族の同意が得られている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>計画の見直し期間を入居者の状況に合わせて、3ヶ月・6ヶ月に設定し、毎月モニタリング表で状態を把握し、職員間で検討会議を実施している。又、確実に見直しをし、その人に合った計画を作成されている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携・病院受診・往診・自宅訪問に同行・重度化に伴う終末期の支援・足湯等、入居者や家族のニーズに応える取り組みがされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関や入居者のかかりつけ医とは密接な関係で、気軽に相談や指示が仰げる連携が確立されている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居契約時に口頭で看取りに関する話しをし、時期を見ながら、見取りに関する指針の書類を提示し、同意を得ている。ホームでできる最大限のケアに向けて、本人・家族・医師・職員が一丸となるように、方針を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報(広報誌の写真を含む)に配慮し、同意書を作成されている。日々のケアでは記録物に注意を払い、言葉掛けや対応は尊厳に繋がる取り組みをされている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「自由」な生活に重点を置き、本人のペースを尊重し、管理するルールはなく、起床時間・晩酌(夕食時・寝る前)・禁煙(職員が預かり希望時のみ)等、入居者の希望に沿い、柔軟に取り組まれている。		

グループホーム しおさい

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの駐車場の横の畑で採れた作物を利用したり、準備や後片付けを入居者と一緒に行っている。テーブルセットを置くスペースのみで、職員が座る場所がなく食事は一緒にはされていないが、横の事務机で施設長が同じ食事をされる事はある。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	以前は毎日好きな時間に入浴されていたが、入居者の希望があり、現在は週3回の午前中が入浴日で、体調により清拭の場合もある。希望があれば毎日でも可能である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	計算問題の好きな人や、裁縫・畑・掃除・豆茶作り・食事のお手伝い等、できる事を楽しみながらされ、日々の生活の中で、活力の引き出しに繋がっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブ・散歩(略毎日)・買い物・祭り参加・墓参り・自宅訪問等、本人の希望を取り入れながら支援されている。自然の中で生活されており、入居者本位の外出支援ができています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	チャイムやセンサーの設置はなく、入居者の外出傾向を把握し、職員間で連携しながら施錠をしないケアがされている。ホームの回りに施設長の身内が居住されていることもあり、地域の住民とのネットワークが充実している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いで昼夜を想定し、年1回消火・非難訓練が近くの身内の方の参加や、町内会に参加依頼をしながら実施されている。地震や水害を想定しての訓練はなく、備蓄関係の準備はされていない。		ホームの立地条件や地域的なことを考慮し、災害を様々な方面から想定し、地震や水害等に関する避難訓練を実施される事を期待したい。又、災害時の備蓄(水・当座の食料等)や非常持ち出し品を考慮される事を期待したい。

グループホーム しおさい

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	現在、食事や水分の制限のある入居者はなく、咀嚼や嚥下に配慮して、刻み・お粥で対処され、バランスの良い食事が提供されている。水分量はコップを決め、大まかに把握されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームは全体的に(玄関・廊下・リビング・台所・浴室・トイレ・足湯・濡れ縁・畳の部分等)に一般の家庭の造りである。又、騒音は感じられず、潮風が吹き抜けている。窓から見える海や島は季節の移り変わりや開放感があり、居心地が良く眺望絶景である。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室にベットが上手に配置され、それぞれが個性的で温かみを感じられる。入居者は実に沢山の生活用品や小物を持ち込まれ、正にお年寄りの居室で生活観があり、我が家として活用されている。		